



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2019年10月1日

10月 第213号

奈良・人と自然の会



＜ならやま大通りからの進入路開設工事＞



Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	歴文研修会・報告	9
Monthly Repo. ならやま	2	ならやま投句箱	10
私のふるさと	3	やさしい病害虫講座	11
里山の今・ならやま花だより	4・5	ならやまプロジェクト	12
夏だ休みだ里山で遊ぼう②報告	6	Gallaryならやま	13
自然教室（佐保台小）・報告	7	行事案内	14
自然教室（奈良公園）・報告	8	幹事会報告・編集後記	15

おごり高ぶることなく過ごそう、と改めて思います。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

8月22日(木) 活動 晴れ 77名+5名

2週間ぶりの活動日。草に埋もれ、各Gや全員



での除草に追われる。打ち合わせでは本会に関する朝日新聞の天声人語の紹介のほか、イ

ベントの連絡などが行われる。来客3名、シニア生2名。里山Gはイベントの準備と薪割り、エコGはサトイモや野菜への追肥と野菜の収穫、そして景観GはBC周辺の草刈りを行う。またビオ班は木道の仕上げ、花班は花畑の草引き、そしてパトGは観察路の下草刈りに取り組む。

8月24日(土) イベント 晴れ 31名+37名

「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう②」が行われる。参加者34名、トヨタ自動車からの視察者1名を含む来訪者3名、そしてスタッフ31名が自然工作や水生生物観察、昼の飯ごう炊さん、そして午後の自然活動に取り組む。特に午後は児童が保護者と一緒に、チェックポイントを回る、といった初めての試みとなった。

8月29日(木) 活動 晴れ 78名+2名

草との格闘が続く。来週の協働活動も各Gごとの草刈りになった。打ち合わせではこの他、スズメバチの駆除に関することや再来週からの終日活動について連絡される。里山Gは倒木処理とイベントの後片付け、エコGは草取りのほか畝づくりなどの畑整理、そして景観Gは彩の森の草刈りを行う。またビオ班は水生生物調査、花班は百日草園などの草取り、そしてパトGは観察路の笹草刈

りと階段の杭打ちを行う。県森林技術センター職員2名来訪。

9月5日(木) 活動 晴れ 72名+5名

各Gごとの協働活動の草刈りだ。打ち合わせではこの件のほか、スズメバチ駆除の件、そして移動作業のお願いなどがなされる。県から1名。里山Gは薪割りと下草刈り、エコGは陸稲の雑草刈りと大根の種まき、そして景観Gは実りの森の草刈りを行う。またビオ班は樹木の剪定、花班は花畑の草取り、パトGは観察路の草刈りを行う。また、果樹班はブルーベリーの草取りに取り組む。

9月12日(木) 活動 晴れ 72名+5名

昼間はまだ暑い。打ち合わせでは助成金の紹介や、健康管理についての注意喚起が行われる。その他スズメバチの姿がまだ見られるとの情報もある。シニア生3名、近大生2名。里山Gは部分皆伐地区の下草刈りと薪割り、エコGはエンドウ畑・カボチャ畑の撤去と除草、そして景観Gは彩の森の草刈りを行う。

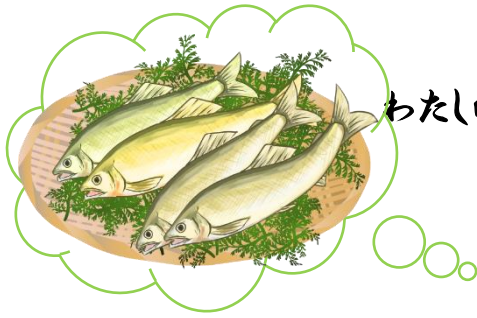
またビオ班は池周辺の草刈り、花班は花畑の草引き、そしてパトG



は4コースのパトロールとメイン階段の補修、その他果樹班はイチジクの水やりに取り組む。今日から終日活動。

9月19日(木) 活動 晴れ 67名

活動にも最適な時期だ。打ち合わせでは施設施設錠の件や名札貼付の励行のお願いなどが行われる。里山Gは薪棚修理と枯死木伐採、エコGは野菜畑の草取り・追肥と大根などの種まき、そして景観Gは実りの森の草刈りを行う。またビオ班は水生生物調査、花班は山野草園の草引き、そしてパトGは1コースのパトロールとメイン階段の補修に取り組む。



わたしのふるさと

田中 善英

奈良に住み始めてから、もう 25 年目になりました。気がつくとな奈良がこれまでで一番長く住んだ土地になってしまいました。

私は兵庫県の小野市で生まれました。そろばんの町、刃物の町で、日本標準子午線が通っています。また、実家の目の前に加古川の堤防があり、その内側に田園風景が広がっています。川向こうには山があり、子供の頃は川や農業用水で泳いだりして遊んでいました。

実家は二階建てで、一階の天井近くに洪水で浸水した跡が残っています。昭和 20 年の洪水で堤防が切れて大変だったそうです。そして堤防が見上げる程に大きくなりました。川は全く見えません。子供の頃には何度も洪水がありましたが、幸いな事に私の記憶では家が浸水した記憶はありません。洪水になると学校は休みで、田んぼに迷いこんだ魚を追いかけて遊んだものでした。

生まれてから兵庫に 22 年、それから就職したのをきっかけとして、神奈川県で 11 年、大阪に 5 年、そして奈良にやって来ました。

神奈川県から転勤で大阪に来て、また転勤で何処に行くか判らないという状況の中で、なぜ奈良に住もうと思ったのか。今にして思えば奈良に生まれた土地と同じ匂いを感じたからかもしれません。

「ふるさと」という言葉を聞くと思い出すのは、父や祖父と行った魚取り、おばあさんと行ったキノコ取り、そして母の味です。特に、小さい頃、祖父や父と一緒に目の前の加古川に鮎取りに行った事は楽しい記憶です。

よく近所の人と連れ立って川に行きました。川岸で投網を持つ人と小さな川船でガーと呼ぶ 30cm 程度の板を何枚も付けたロープを引っ張って鮎を川岸の方に追いつめる人に別れ、ガーにびっ

くりして川岸近くにきた鮎を川岸で待ちかまえていて、投網で一網打尽にするという漁法です。

獲れた鮎は川岸で人数分に分けてからくじ引きです。多くても少なくても仲良く分け前をもらい、いつも和気あいあいでした。

私は見ているだけなので分け前はありませんでしたが、いつか投網を打つ人になって、分け前を貰いたいと思ったものです。でも、とうとう投網はマスター出来ずじまいでした。不器用なのかセンスが無いのか、悔しい限りです。

また、秋になるとおばあさんと山に行き、キノコを採りました。山の中を歩いてキノコを採り、山の上からわが家を見ながら食べた弁当の味は忘れることができません。色んな種類のキノコの中から食べられる物を見分けるおばあさんに感心したものでした。でも、教えて貰ったはずですが、私は未だに毒キノコの見分けもつきません。

当時から鮎は煮ても焼いても好きでしたが、キノコは嫌いでした。でも、この頃はキノコ汁の味も懐かしく思い出されます。不思議なものです。

今も実家に母が居ますので、よく田舎(小野市)に行きます。でも、山と川は変わりませんが、田んぼが消え、用水路が無くなり、川も汚れて、昔の面影はありません。昔、飼い犬と散歩した堤防に登って実家を眺めながら、ここがふるさとかなと思うことがあります。

どこかで、ここは生まれた場所だけど、ふるさととはもう呼べないと思う自分がいます。「ふるさととは遠くにありて思うもの」という言葉がありますが、遠くは距離でなく、時間なのかなあ？ それとも心の中なのかなあ？ とも思います。

また、心の中にある昔の田舎、生まれて初めて触れた自然がふるさとなのかなとも思います。

ならやまで直に自然に触れていると、昔の田舎の両親、祖父、祖母や仲間を思い出します。自然に触れて、人と触れあって過ごす場所。それがふるさとであり、心が戻る場所なのかも知れません。

サイクリングをしている時にこの場所を見つけ、縁あってならやまに通り始めました。汗を流しながら、ここが今のふるさと？ ふるさとの入り口？ かな、と思う今日この頃です。

里山グループ**エコファームグループ****里山の変遷10年と今後への思い**

池田 信明

里山グループの仲間に加えていただいてから10年余り、当時は里山の整備ということで、先輩会員の方たちと一緒に、耕作放棄された田畑跡に、おい茂ったささやぶ、雑草の刈り取りなど、荒地開墾のような作業だったことを思い出します。

その後、整備作業も次第に里山の林内の作業に移り、樹木種類、樹木本数などの樹木調査や、日差しもあまり入らないような薄暗い林内で風通しを良くするための雑木除伐、間伐作業などの整備作業に関わってきました。そんな中、数年前、心配されていた「カシノナガキクイムシ」の飛来により樹齢40年を超すようなコナラ、クヌギ、カシ類が次々と被害を受け始め、林内の様子は一変しました。そして、防虫対策もあまり効果が見られない中、里山に入るたびに、コナラ、クヌギなどの枯死木が拡大して行くさまを見ていると害虫被害から守ってやれないもどかしさと、無力さを感じた時期もありましたが、今は新たな被害はほぼ収束しているように思われます。

被害木は伐倒し、シイタケ櫓木、まき作りに利用しながら、次のステップ（里山の再生）に進んでいます。皆伐地区を利用して子供イベントなどでコナラ、クヌギの植樹体験を実施、また、明るくなった林内ギャップではコナラなどの実生による幼木も育っているのが見られ、自然林の再生も少しずつ進み始めているのがうれしい。

里山グループでは、今後も里山で必要な一定量のシイタケ櫓木、まき材用にコナラなどを利用しながら林内の整備を継続していく中で、10年後の里山の姿を考えると、植樹エリア、林内ギャップの幼木を守り育てるために、今、すべき事として、夏季の下草刈り作業は、あと数年は続けることが欠かせない大事な作業です。10年先に里山を守っていただく人達に引き継いでいくためにも、里山グループの頑張り、ならやま会員の皆さまのお力とご協力が欠かせません。

冬野菜の作付け準備たけなわ！

鈴木 経子

気象予報士が連日のように「猛暑日」と叫び続けた夏も、ようやくのことフィナーレを迎え、里山には、ウスバキトンボなどの秋を感じさせる昆虫たちが、飛び交うようになってきました。

いよいよ9月から冬野菜の作付け準備に猫の手も借りたいほどの忙しさです。除草、耕耘、畝作り、種まき、灌水と一連の作業が歳時記に記されます。定例の活動日だけでは、とてもはかどらないので、毎週月曜日を臨時活動日として、汗と土にまみれての除草作業などに追われました。

今年の茄子は、例年になく艶やかな色合いで美味であり、豊作でした。おそらく蜜蜂の効果なのでしょう。四国や九州地方のハウス栽培農家では、兵庫県の宝塚からニホン蜜蜂を買い入れて、ハウス内に放っているそうです。

8月上旬にまいた白菜は、グループの皆さん方による連日の灌水作業にもかかわらず、3～4割程度の芽生えとなりました。その後、欠株のところに順次種まきした結果、努力が実り、順調に芽を出してくれています。不幸中の幸いか、少しずつ収穫期がずれてくれそうです。

冬野菜のキングとも言える「YR くらま大根」は、9月上旬からまき時を少しずつずらせることになります。昨年は一週間の間隔にしましたが、直ぐに追いついてくれたりしたので、今年はもう少し間隔をあけることになります。

里芋も、日照り続きで瀕死の状態でしたが、台風がもたらした雨で元気を取り戻し順調に成育しています。芋煮会を楽しみにしてください。

その他の冬野菜には、聖護院大根、小カブ、スワン、紅心大根、ホウレンソウ、ブロッコリー、リーフレタス、ネギ類、春菊、ミズナなどがあり、里地をにぎわしてくれるでしょう。

寒さが厳しい冬は、お鍋がおいしい季節。冬野菜の中でも体を温める働きがある根菜の多くは、収穫期が今から待ち遠しいですね。

景観グループ



ならやま花だより

アカマツ林を再び

八木 健彦

9月に入って残暑が続く。けれども確実に秋の気配が漂うようになった。

この平城山には秋風はどこから吹いてくるのだろうか。飛鳥の方からだろうか、山城のほうからだろうか、と考えていたら、この地が壬申の乱の戦場になったことを思い出した。

飛鳥からは倭古京を奇襲制圧した勢いで大津宮めざし北上した大伴吹負率いる大海人側の軍勢がここ乃樂山（当時はこう記したそう）に陣を構え、倭古京奪回を目指して山背（山城のこと）を南下してきた大野果安率いる近江朝の軍勢とここで激突し、吹負が敗走した戦である。

この戦で斃れた者の遺体はこの地の土になって、新たな命へと受け継がれたのだろうか。当時はここはどのような様子だったのだろうか。既に暮らしの営みが入った2次林になっていたことは確かだろう。既にアカマツ林が広がっていたのだろうか。1500年前には西日本にアカマツ林が広がりだしたと言われているからその可能性はある。

アカマツ林は江戸中期に最盛期を迎えた後、1950年代まで里山林の柱の一つであった。奈良でも県北の丘陵地帯にはアカマツ林が広がり、多くの松茸山が点在していたが、燃料革命、大規模宅地造成、そして松枯れ（マツ材線虫病）の大発生によって姿を消した。しかしアカマツの種子は50年程生き延びる。アカマツは日当たりのよい十分な明るい場所で、落ち葉などの堆積が少ない鉾物質土壌が露出したところで実生が芽生え成長していく。ギャップでいち早く成長する先駆樹種と呼ばれる。

現在平城山でのアカマツ林はそうのように蘇生し、成長のさなかにある。その確かな成長のためには菌根菌が付着し、共生関係を促進していくような環境を整備することが不可欠だ。それには常緑の低木やネザサを徹底的に取り除き、落ち葉などの腐食層を根気よく掻き出して取り除くことだ。私たちは今日もまた黙々と地掻きを続ける。

柿はスゴイ！

坪井 都子

私は干し柿が大好きで、毎年手作りしています。5年前、渋柿作りから始めたいと渋柿の接ぎ木を植えました。何と3年目から実をつけてくれ、去年は全自家製で30余個の干し柿が作れました。

「柿が赤くなると医者が青くなる」ということわざがあります。それは栄養成分に優れる柿が食べられるようになると、皆が健康になって医者にかからなくなるからだとか。ビタミンCの含有量は果物や野菜の中でも断トツで100g中70mg含まれます。因みにビタミンC含有の多い温州ミカンで35mg。ミネラルも多く、特に塩分過剰に悩む現代人に欠かせないカリウムや植物繊維も豊富です。



柿は元々渋柿ですが、柿の渋さには目をむきます。渋みの原因は果実に含まれる柿タンニンという物質です。タンニンはポリフェノールの仲間、抗酸化・抗菌作用があり、歯磨き、うがい剤、ノロウイルスや細菌類に著しい効果を示す殺菌・抗ウイルス剤、二日酔い防止、ヘタでしゃっくり止め、防腐・撥水効果等々、たくさんの効用を持ちます。“渋い”のはいいことだらけなんですね。

利用場面でも負けません。甘柿の生食や干し柿を筆頭にジャム、柿の葉茶、柿の葉寿司、柿酢、柿渋染め、紅葉保存……等々。

ところで、柿のルーツは？ 日本です。1789年にヨーロッパへ、1870年に北アメリカに伝わったことから学名にも *Diospyros kaki Thunb* と“*kaki*”の名が使われています。国内の収穫高の1位は和歌山県、2位は奈良県。市町村別では、刀根早生発祥の奈良県五條市がトップです。

ならやまのベースキャンプにも大きな柿の木があり、渋柿がたわわに実っています。みんなで干し柿を作ると聞いてとても楽しみにしております。

夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！②

戸田 博子

7月に続き、「奈良県の山の日、川の日」のイベントとして「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！②」が、8月24日（土）に行われました。

連日の暑さと雨予報などで、申し込み数が45名から34名に減りましたが、ならやまのスタッフ31名、近大生2名にもお手伝いいただき無事終了いたしました。



今回は、トヨタの環境助成金担当の兼岩さんが東京から活動を見に来られるということで、ならやまの今を感じてもらいたいと考えていました。

午前は、水生生物の観察。自然工作のストラップ作り。参加者が少ない分、ゆったりと体験してもらえたと思っています。



（ ドジョウやザリガニをすくいました。 ）

お昼はお米を計り、洗い、火加減を見ながら炊く飯ごう炊さんで、初めての経験の子供もかなりいました。カレーや漬物はスタッフが準備し、暑い中でも皆さん沢山食べていただき安心しました。



（ 火は熱く、煙いな！ ）

午後は、里山散策。

今回は、班ごとで行動するのではなく、里山の地図を片手（？）に家族単位で自由に山を歩き、遊び、7か所のポイントで自然観察をして、探索カードにシールを貼るという内容にしました。盛りだくさんの内容で、不安な部分もありましたが、私達が考えるより子供達には好評で、ポイントごとの担当者にはご苦労いただきましたが、親子ともども楽しんでもらえたと思っています。



（ アオキの葉の字書き ）

降水確率が40%だった割には青空が広がり、前日に降った雨のおかげで地面が冷やされ、気温が低めだったことも熱中症の不安を和らげてくれました。

初めての参加者への道案内、散策道の分かりにくさ、暑い時期のイベントの反省点は多々ありましたが、若い世代に里山の自然を理解してもらえる大事な行事だと思います。

9月自然教室だより

佐保台小学校放課後子供教室 実施報告 辻本 信一

昨年に引きつづき今年の夏も残暑厳しく、学校より「外遊び禁止」の指導をうけ、2年つづきで校庭の昆虫採集は中止となりましたが、9月11日(月)昆虫をテーマとした室内での観察会を(雨の日のバージョンにて)実施いたしました。



【元気にみんなで集合写真】

参加者は1年生から6年生までの全学年にわたり昨年と同じく合計55名の児童が6班に分かれ参加してくれました。それに対し私達スタッフは各班担当6名に昆虫説明補助の菊川さん、木村さんと写真担当1名がつき9名の布陣で臨みました。

佐保台小学校放課後子供教室からはコーディネーターと見守り担当のお母さんが10名が参加してくださいました。

今年もスタートは自然工作。テーマはブンブンゼミ。低学年用には、はじめから紐付けをすませ全員の所要時間がバラつかないよう工夫しました。



【ブンブンゼミ工作】



【ブンブンゼミ鳴らし】

個性豊かなセミが次々にできあがり、回すと文字通りブーン、ブーンとセミの大音響。前半の時間はアッという間に過ぎてしまいました。

休憩を挟んでのメニュー後半では、子供たちが持ち込んでくれた昆虫の名前の確認(同定)作業。

ご披露された昆虫は、トノサマバッタ、クルマバッタモドキ、ウスバキトンボ、オオクワガタ、それにオスとメスのカブトムシなど色とりどり。子どもたちは、図録集「見つけよう自然のなかまーならやまの昆虫と植物たちー」のページを繰りながら観察を楽しみました。



【図録集に目が釘づけの子どもたち】

当会の昆虫博士、木村さんからは、この日のために準備したコガネムシの仲間のシロテンハナムグリの幼虫が披露されました。説明を聞きながら背中で歩く独特な動きに興味津々。たくさんの子供たちががすすめられるままに虫を手にとりキャキャと言いながらその感触を味わいました。

さらに俗にイモムシと呼ばれる種類のセスジズメの幼虫が登場すると子どもたちの興奮も最高潮、教室内は熱気に包まれました。



【これは何でしょう？】 【こんなにも大胆に】

最後は当会の菊川さんがこれまで「ならやま」で撮影された昆虫の写真55枚を利用した昆虫の写真コンテストをおこないました。

6つの班に分かれた子どもたち全員に写真1枚1枚を鑑賞してもらい、どの写真のどの昆虫がどのように良かったか、班ごとに意見をまとめ発表してもらいました。



【昆虫の写真コンテスト】

こうして今年の昆虫観察会も屋内とはいえ屋外以上の熱気をはらみ大盛況の内に幕を閉じました。スタッフの皆さま、ありがとうございました。

9月自然教室だより

「初秋の奈良公園・自然観察会」

山本 美智子

9月16日(月)参加者は16名。「視点を変えたおもしろい観察会を」とおっしゃる田代貢先生を迎えて今年度3回目の観察会です。



【参加者は16名、行基像前に集合】

午前9時近鉄奈良駅行基像前を出発。先生の手描き特性地図を手に、和風建築の奈良基督教会を右手に興福寺境内へ。マツの木の宿り木、マツグミから観察スタート。

(スダジイ、イチョウ、アラカシ、シラカシ、クサギ、アメリカハナミズキ観察)



【スダジイのドングリ】

餅飯殿通りに入り率川の暗渠を辿って元林院から猿沢池へ。(ツバキ、ヒノキバヤドリギ、ゴヨウマツ、コニシキソウ)植物のみならず色々な生き物にも造詣の深い先生。目の前の鹿がいきなり観察対象になる。(食性、ディアーライン、瞳の形、かかと、ヒヅメ、角からの年齢推定、イノシシの毛との相違)身近な鹿なのに何も知らなかった自分にあらためて愕然。(灯台下暗し)



【いきなり鹿も教材に】

奈良ホテルチャペル駐車場(エノキ、メタセコイア、ヘクソカズラ、イングリッシュオーク、イヌザンショウ、イヌマキ、アセビ)、瑜伽神社、天神社と巡る。(センダン、オガタマノキ。クロガネモチ、マイマイ)

11時30分~12時15分、鷺池と荒池のあいだの芝地ベンチで昼食、休憩。午後のコースへ。

まず高畑。(イチイ、コブシ、ネムノキ、イヌ

シデ、ツユクサ、サルスベリ、アメリカチョウセンアサガオ、ビナンカズラ、アケビ、ムベ)

その後、高畑から「下の禰宜道」へ。左手に入り、アセビの林をかき分けるようにして枯木を踏み、薄暗い中を小さな流れを渡り更に奥へ。

樹々の間に、ナギの大木が鎮座。樹齢300年近い由。幹が過去の台風のせいか中程から折れ、枯木となって下の枝に複雑にのしかかっている。無残に思えたが下から伸びた枝は日照時間が増えたとばかり青々と逞しい。これが自然のだと学ぶ。



【樹齢約300年のナギ】

回り道をして鹿苑へ出る。(ナギ、イヌガシ、カマツカ)更に飛火野へ。(クスノキの巨木、ヒイラギ)スタ場では、寄生虫退治中か泥にまみれた鹿。「雪消しの沢」では、腹まで水につかる鹿。他にも流れの途切れた水路に座り込んでいる鹿。暑さ対策中の鹿たちに羨望。

博物館南側の水路(水源は春日神社の奥の山からとの由)で、シジミとモノアラガイを観察。過去にサワガニを見たことがあったが、現在も貝が生息しているとは、...。



【田代先生を囲み集合写真】

午後2時過ぎ、スタートした興福寺へ無事帰着。田代先生にお礼と感謝。一人ずつ感想を述べ解散。

身近な自然の新しいことを知った感動と高揚感、暑さと疲れで別れがたく全員で2次会の喫茶店へ。

メモに残る観察対象は植物49種、動生物4種。植物や生物の現在の自然のあり方からその逞しさや健気さ、可憐さを通じて、自然の大切さを再認識。田代先生は、「植物はカタチを残しながら生きているので大変分かりやすい観察対象である。」とおっしゃるが、先生の周到な準備、解説の熱意が、私たちへの知る喜び、感動、楽しさに。目からウロコの事ばかりです。

次回は10月28日(月)平城宮跡です。

皆さまの多数の参加をお待ちしております。

9月歴史文化クラブ研修会・報告

世界遺産の百舌鳥・古市古墳群

田積 彰男

令和元年 9 月 11 日、天気は晴れの歴文日和。
近鉄西大寺駅を AM8:30 定刻に中型バスで出発。
今回の参加者は 26 名であった。

本日は残暑厳しくもバスの中はクーラーが効いて快適。まずは古川代表から参加者に挨拶、続いて本日の見学要点の説明があった。

次に中井世話人から行程の説明に始まり本題の「百舌鳥・古市古墳群と河内王権」の解説、また田代世話人から「百舌鳥古墳群と仁徳王陵」の解説があった。

バスは予定通り大仙公園に到着。公園内を歩くこと 10 分程度で堺市博物館に着く。AM9:30。博物館の会議室で白神学芸員の講演が始まった。

世界遺産登録に関わる話では登録条件は「顕著な普遍的価値」。しかることながらここでも外交が重要だったと。「河内王権の成立」も熱のこもった内容に全員聞き入った。質問も多く予定の時間をオーバーしたが有意義であった。講演後博物館を見学した。

バスと徒歩組に分かれて都市緑化センターに移動して昼食タイム。センターで堺市観光ボランティアのガイドの方と合流。履中天皇陵のビューポイントにて、これからの訪問先の解説があり予備知識をつける。



履中天皇陵前にて

以下バスで周る。まず石津が丘古墳（履中天皇陵）拝所から参拝、次に世界三大墳墓となった仁徳天皇陵拝所、堺市役所 21 階展望ロビーからは百舌鳥墳群が一望でき、改めて古墳の大きさが再確認できた。



堺市役所 21 階展望ロビー

バスで方違神社に移動し、徒歩で田出井山古墳（反正天皇陵）を参拝。

最後は土師ニサンザイ古墳を参拝、この古墳の被葬者はあきらかではないが、宮内庁により「東百舌鳥陵墓参考地」（被葬候補者：第 18 代反正天皇の空墓）として陵墓参考地に治定されている。前方部が大きく広がったその姿は前方後円墳の中で最も精美といわれている。



仁徳天皇陵の解説

仁徳天皇陵まで戻りトイレ休憩をはさみガイドの方と別れた。これで本日の予定は無事終了。

帰路のバスの中で田代世話人から、中国南朝の「宋書」に見られる「倭の五王」についての解説がある。用意した河内ワインを試飲しながら、来年に計画される古市古墳群が話題になる。

PM5:30 西大寺駅南口に到着、解散となった。

ならやまトーク・投句 初秋編

ならやまに

ウスバキトンボエアレース 鈴木未一

(ならやまの里地にウスバキトンボが乱舞。中にはエアレースのような曲芸飛行も・・・ 赤トンボといわないところが憎い！)

子らの植し青い稲穂の背比べ 藤原 勉

(学習田、秋の情景。「子ら」「青い」「背比べ」の言葉が響き合う)

トンネルを出れば・・・言葉通り、そこにはならやまの秋が広がる 藤原 勉

(トンネルを出れば・・・言葉通り、そこにはならやまの秋が広がる)

いつの間に蚊にたかれて野良の朝 八木順一

(残暑の朝、秋が近いと蚊も子孫を残すための必死の営みなのです)

ピーマンも終り野原となりけり 八木順一

(緑あふれていたピーマン畑、秋の雑草が勢いづいて一面の草原に)

月曜の増えし出番の秋きたる 岡田安弘

(雨続きで作業遅れのエコ班、週2回の出勤となる・・・ 季節と作物は待つてくれないものね)

ならやまや数珠玉実り風そよぐ 岡田安弘

(小さな秋の訪れ、誰が植えたか、珍しい数珠の一叢が子らを待つ)

投句歓迎 (古川まで)

竹の森風にさざめく秋の蟬 岡田安弘

(臨時活動日の早朝、笹の音と蟬の声がハーモニーを奏でる)

初取りの無花果の三つおちよぼ口 古川祐司

(今年植えた無花果の初収穫。取れたての実のおちよぼ口が愛らしい)

草の根や鋏もたじろぐ秋早 古川祐司

(エコ班は臨時出勤して秋播きの耕作。雑草の手強さに悪戦苦闘する。)

草引けば頼りなくとも蕎麦の花 古川祐司

(長引く残暑に蕎麦畑は雑草で埋まる。草取りの緊急出勤、救出した蕎麦の先端にはもう花穂が見える)

夕さりの胡弓の調べ風の盆 藤原 勉

(おわら風の盆。独特の哀切に満ちた胡弓の旋律・・・いいですねあ)

最澄の深き願いの山は秋 羽尻 高

(法華一乗の教えを体解するまで山を下りないと、若き僧最澄は叡山に籠った。その情熱に惹かれて比叡山を訪れた。山はもう秋の気配)

見晴るかす百舌鳥三陵に天高し 田代一行

(9月の歴史研修会で大仙古墳群を訪れた。堺市役所二十一階へ上る。眼下に百舌鳥三陵、茅渚ノ海が迫る。歴史ロマンに浸るひと時)

やさしい病害虫講座 34

スイートコーンの病害虫

木村 裕

トウモロコシといえば甘味の強いスイートコーンを連想しますが、世界的には家畜の飼料用の堅い品種が主流です。またポップコーン向けに栽培される品種もあります。しかし、甘かろうが、美味しくなかろうが、堅かろうが害虫さんにとってはあまり関係ないようです。

【アワノメイガ】

立派な実ができたと大喜びで収穫して皮を剥ぐとにつっこり笑って「こんにちは、お先に失礼しています」と挨拶してくる肌色のイモムシが見つかります。中の果実の一部もすでにかじられて虫糞に変わっています。これはアワノメイガという蛾の幼虫で、虫嫌いの奥さま方にとっては不快極まりないことでしょう。購入したお値段の中に虫代も含まれていますので大切に。



前年のトウモロコシの残骸や畑の近くの枯草の中で越冬した幼虫は、春に植えたトウモロコシが穂を伸ばす頃に成虫の蛾となり、子孫繁栄を祈念して丁寧に葉の裏に卵を産みます。卵からふ化した直後の小さな幼虫は葉をかじっていますが、体が小さく食べる量もわずかです。その存在に気づかれることはありません。やがて雄穂が伸びだすと、その茎や穂の中に潜ります。



侵入を受けた雄花は糸で綴られて黄色の虫糞もくっついていきます。虫の成長につれて食べる量も増し、茎の中にも潜ります。雄穂が折れる被害も増えてきま

す。そのまま放置すると遠慮することなく、厚かましく実となる雌花にも食入してきます。このように常に雄穂や茎、果実内に潜んでいるので防除の難しい害虫です。

防除対策としては、雄穂が伸びだし雄花が咲き始めた頃に薬剤散布をします。また、雄穂が幼虫のすみかとなっていますので、受粉が完了したと思ったら直ちに雄穂を切り取って処分します。決して畑には残さないように。

【アブラムシ類】

長さ1mm前後の青黒い集団が葉の裏表、ところかまわずに寄生します。ときには実の表面にも取り付きます。虫があまりにも多い時には、葉の表面にはねばねばした液（排泄物）で覆われ、すす病を誘発し黒く汚れます。



トウモロコシには2種類のアブラムシが寄生しますが、どちらもナスやキュウリなどの野菜類にやってくることはありません。取りあえずテントウムシさんに電話する程度でいいでしょう。

【アワヨトウ】

葉をガリガリかじって孔をあける黒褐色のイモ



ムシです。昼間は筒の中に潜んでいて夜になると活動して葉を食害します。葉が食われた株では筒の中を調べ

てください。黒い虫糞の下に丸くなって潜んでいますのでピンセットなどで捕まえてください。なお、この虫はトウモロコシ以外の野菜類には興味がなく、食べる対象にはなっていません。

【病害】

葉に斑点や斑紋がつく病気がありますが、多発することなく、問題はないでしょう。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活動予定日

10月	3 (木) 10 (木) 17 (木) 24 (木) 31 (木)
11月	7 (木) 14 (木) 21 (木) 28 (木)

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）
- ◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① J R平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分
 - ② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 J R奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

- ◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

- ◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。

- ◆連絡先：八木 順一



里山

10/3 協働活動：水田のコナギの刈り取り・稲架がけ用竹材切り出し

景観

10/3 10 17 24

部分皆伐地区の下草刈り

薪割り／里山林内の整備／イベントの準備

ユートピア：松山平排水用水路整備

31 部分皆伐地区の下草刈り

薪割り／里山林内の整備

ユートピア：松山平排水用水路整備

エコファーム

10/3 葉菜類の種まき（ほうれん草、水菜、ミズナ、チンゲン菜）

・「朝日親子」用と佐保台小稲刈り用に稲架準備（竹棒採取、支え棒確保）

・水田周辺、畦の除草（マムシ追放とけが防止）

そば：草取り／果樹：草刈り

10 佐保台小の稲刈り（雨天時は24日に延期）

そば：草取り／果樹：草刈り

17 ナス・唐辛子・ピーマン撒収。

サツマイモの株上げ、区画作り（イベント用）

果樹：施肥

24 稲刈り予備日／脱穀

そば：稲架用竹材切り出し

31 サツマイモ、サトイモの収穫

そば：稲架準備

10/3 整備：BC 周辺草刈り&整備（イベントに備え）／養蜂：下草刈り／ビオ池：池整備

花：ヒマワリ撤去、腐葉土入れ／葉牡丹苗植付け

10 整備：BC 周辺草刈り&整備（同上）

養蜂：下草刈り／ビオ池：西池生物調査

花：馬の鈴草剪定、山野草園草取り

17 整備：BC 周辺草刈り&整備（同上）

養蜂：下草刈り／ビオ池：池整備

花：茗荷園刈り取り、山野草園草取り

24 整備：佐保自然の森草刈り整備

養蜂：下草刈り／ビオ池：西池生物調査

花：花菖蒲園草取り、整地

31 整備：実りの森草刈り整備1／養蜂：下草刈り／ビオ池：池整備／花：アジサイ移植、山野草園草取り

パトロール

10/3 ミーティング／メイン階段工事
手すり等／丸太階段補修

10 メイン階段工事仕上げ／丸太階段補修
イベント準備

17 24 31 観察路整備

パトロール：3→4→1→2→3

Gallery ならやま



▲パステル画「静物」 有元 康人



▲写真「丹頂鶴」 田積 彰男



▲陶芸「猫」 小島 武雄



▲写真「今にも飛び立とうとするシジュウガラ
(奈良公園)」 千載 輝重

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

行事案内



朝日親と子の自然環境教室のご案内

千載 輝重

シニア自然大学校主催、朝日新聞社・朝日小学生新聞後援で、一昨年、昨年に引き続き今年も開催します。

参加者は近畿一円からで、これまでのアンケートでも日常では味わえない自然体験に好評を得ています。実りの秋を感じながらの一日、親と子の楽しい思い出が生まれればいいなと思います。稲刈りや里山遊びなどを予定していますが、皆様のご協力をお願いいたします。

- ・日時：10月13日（日） 10：30～15：30
午前：稲刈り 午後：里山体験
(雨天確率50%以上：10月20日に延期)
- ・参加人数：親子31組（62名）程度
シニア自然大学校スタッフ11名

秋のめぐみだ！お芋を掘ろう！

吉川 利文

あんなに暑かったならやまにも、爽やかな風が吹くようになると、実りの秋です。その実りに感謝し、秋を実感しようと恒例の芋掘りイベントと自然観察会を、公開イベントで下記の要領で行います。題して「秋のめぐみだ！お芋を掘ろう！」。

1. 日時：10月26日（土）10時～15時
※雨天の場合は、翌27日に順延
2. 場所：ならやまベースキャンプ、エコファーム、
ならやま里山林
3. 参加者：子どもたちと保護者約70人
4. 内容：午前＝芋掘り、芋のコンテスト
午後＝ならやま里山林で自然教室
※里山林内で自然遊び（木登り、丸太のブランコなど）と自然木の伐採を体験します。
5. 持ち物：軍手、スコップ、お弁当、汁椀（昼食に豚汁が振る舞われます）、
6. 服装：運動靴・長袖・長ズボン、
会員の皆さまは、スタッフとして多数のご参加をお願い致します。

自然教室チームだより 10月行事案内

秋の平城京・自然観察会

本格的な秋を迎え気持ちのよい秋風のもと平城京にて自然観察会を実施いたします。

事前の観察ルートは特に設けずご指導いただく田代先生の気の向くまま、そぞろ歩きで皆さまに秋の自然を満喫していただきます。

今回の観察のポイントも、①シリブカガシの花 ②ネズミモチとトウネズミモチ③アオギリの果実 ④いろんなドングリ⑤シャリンバイの芽、クサギ等々、いつもどおり、盛りだくさんの内容で幅広く解説していただきます。

皆さまお誘いあわせのうえ、ベストシーズンの自然観察会に、ぜひ、ご参加ください。

1. 日 時：10月28日（月）
午前10時集合（これまで通りに戻します）
午後2～3時解散（予定）
2. 集合場所：奈良文化財研究所北側駐車場
3. 持ち物：弁当、お飲み物、（図鑑、ルーペ）
4. 観察ルート：
特に設けず、植物に誘われるまま、そぞろ歩きを楽しみます。
5. 雨天時実施の有無：申し合わせ通り
6. 担 当：自然教室チーム 桜木 / 山本(美) / 辻本

11月ならやま活動&行事予告

* ならやま活動

- 7日（木）協働活動日
- 9日（土）もう一つの学び舎 （午後）
児童15～20人 芋掘り（雨天実施）
主催：奈良NPOセンター

14日（木）四日市下野地区里山整備委員会
研修訪問（約30名）

28日（木）新蕎麦祭り

* 歴史文化クラブ

12日（火）和邇氏の系譜と奥つ城を探る

* 自然教室

27日（水）奈良公園 自然観察会

「ならやま大通りからの進入路開設工事」
枕木を使った本格的階段ができる（9月12日）